N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414
Lincoln NE 68506 USA
www.nsdapao.org

#1113 13.07.2024 (135)

ミヒャエル・キューネン（Michael Kühnen

第二の革命
第二巻：人民の国家

第10回

反動に対して

反動との闘いについては、すでに本紙の多くの箇所で長々と論じられている。決定的な点は、次のようなことである：

世界史上のすべての革命は、反動的な流れの問題に直面し、多くの革命が遅かれ早かれその犠牲になってきた。国家社会主義革命のような真の人民革命でさえも、この難題を免れることはできない。なぜなら、すべての体制は、最も腐敗した悪質なものであっても、東西のドイツ占領体制は確かにそれに属するが、失うべき影響力と特権を持つ支配者と受益者の層を惹きつけ、それゆえ、民主主義とボルシェビズムを支持する用意もある。

これらの人々は、我々の勝利の後、反動的な態度、あるいは行動に出る可能性がある。しかし、もし我々が、かつてスターリンがしたように、いつ

か反動を支持するかもしれない人々をすべて清算しないなら--そして、我々はそれをしたくない。なぜなら、我々はまた、これらの人々の中に、まず人民の同志を見いだし、反動的でブルジョア的な態度に傾く層や階級の一員を見ないからだ--、残る唯一のものは、絶えず困難な闘いと特に成長する若者の教育であり、彼らはその中で共同体の絆とあらゆる階級や身分を越えた同志関係を自然に身につけるだろう。

その歴史と伝統のゆえに、SAはこの反動との闘いにおいて主要な負担を担っている。わが民族の男子の教育は、基本的にシュトルム・アブテイルングの手に委ねられている。特権や利己的な利点を維持または回復するために努力する者は、容赦なくその座に就かせる。もちろん、これには党のすべての支部が要請されるが、とりわけSAが重要である。SAは、とりわけ、自らの悲劇的で血なまぐさい歴史を念頭に置きながら、反動を粉砕し、踏みにじるよう求められているのである！

私たちは、ドイツ国民を搾取の対象としか見ていない国民にとって異質な要素や、利己的で卑しい動機のために、その過程で彼らに奉仕し続けようとする人々との情けを知らない。

和解のために差し伸べられた私たちの手を押し返す者は、いつかまた、ドイツ国民の名において、国民の同志たちに対して、社会への貢献について説明を求める法律の全力を感じることになるのです。

人民ミリシア：武装したSA

国家社会主義フォルクスシュタートにおいて、SAは3つのフォーメーションに分かれています：

- 人民民兵
- SAスタッフガード
- 一般社団法人SA

エルンスト・レームの考えによれば、我々の運動の勝利の後、SAは、革

命的、民族社会主義的人民軍の幹部として機能し、スイスと同様に、人民民兵として組織されることになる。

人民軍には、軍務に適した我が国のすべての男性が含まれ、また、すべての男性の青少年を早い時期から教育する。最初は、いわば遊びのような形で、次に軍事スポーツで、最後に予備軍訓練で。この後、今日のように通常の兵役に就く。その後、人民の同志は予備役にはならず、せいぜい数年に一度、演習のために呼び出される程度だが、通常の労働生活の一環として、地方や会社の戦闘集団で常に奉仕活動を行う。こうして、全男性人口が常に兵役の準備をし、訓練を受けているのである。

SAの精神を形にしたこの奉仕は、自国民に対する名誉の義務とされ、例外なく拘束されます。

小学生から年金生活者まで、わが人民のすべての人が人民兵に組織されている。人民の同志が、軍事的に十分に訓練され、思想的に強化され、党の意味で人間的に形成されるように、兵役を組織することは、責任ある仕事である。純粋な党組織とは異なり、完全な自発性に基づいていない国家のすべての部門、すなわち人民軍においても、東側モデルのように、個人の望ましい国家社会主義的形成が、力と圧力によって試みられないように、注意しなければならない：

常に疲れる、イデオロギー的な議論や、常に一方向にしか公式に考えることを許されないという強要は、鈍くなり、せいぜい逆効果にしかならない。このことは、常に民主主義と反ファシズムの洗脳を受けながら育った私たち若い世代以上に、誰が一番よく知っていることだろう。

したがって、人民軍やヴェールユーゲントで確信犯的な国家社会主義者を養成することが第一の問題ではなく、むしろ、共同体に献身し、命がけでフォルクスシュタートを守る覚悟のある善良なドイツ人を養成することが重要なのです。ここでも、国家は枠組みを提供するだけであり、人民民兵のSA幹部は、国家社会主義を過剰に説くのではなく、説得力を持ってそれを実践するのである！

純粋な徴兵制の軍隊やプロの軍隊と比較して、人民民兵には4つの利点があると思います：

人民兵を増強することによって、ドイツは再び、考えうるあらゆる侵略者から自らを単独で守ることができるようになるのである。戦争になれば、全住民が直ちに武器を取り、すべての場所、すべての工場、すべての家が最後のカートリッジまで守られることを、私たちは示している。ドイツへの攻撃は、公園を散歩するようなものではなく、死の行進であり、しかも、せいぜい、平和にすることができない完全に破壊された国の征服につながるだけであろう。敵はこれに何の関心も持ち得ない。

人民民兵のコストは、他の考えうる防衛政策よりも低く、これも独立国防の考えに基づいている。人民兵は、ほとんどの場合、通常の歩兵と対戦車兵器のみを装備することになる。なぜなら、戦略はもはや、想定される敵との無条件の技術的対等性ではなく、全人口の動員、そして征服されることを許す代わりにすべてを破壊する意思に基づくものだからである。それでも、友好国や中立国への武器輸出を増やすことで、独立した高度に発達した軍需産業を維持することは可能である。

人民民兵は攻撃的な軍隊ではないので、急遽使用したり、装備を変更したりすることはできない。ヨーロッパで伝統的な戦争を想像するのは難しいが、ドイツの国家社会主義者に対する根強い恐怖心を考慮すると、それは何十年にもわたる戦勝国のプロパガンダによって強化され、生かされてきた。国家社会主義人民国家がその武力を明白に防御的なものにし、それによって、誰もが再び武力で国家社会主義に対抗するという考えを持つほど弱くならないことは、近隣諸国にとって心理的に非常に重要である。我々は、シオニズムに、世界をドイツに対する第3次戦争に突入させ、最終的な終焉を意味するような口実を与えてはならない。

フォルクスミリズは、可能な限り幅広い民衆教育のための理想的な枠組みである。ここで人民の同志は、若い時からドイツの愛国者に形成され、それによって国家社会主義のより遠大な真理を受容するようになる。そうすれば、彼は、さらに自発的に行動し、さまざまな党の編成の中で、新しいアーリア人の創造に参加することをより望むようになる。民間防衛、社会

的任務、母性、家庭科の訓練の分野における女性の義務的奉仕の枠組みの中で、女性の残りの部分においても同様の努力がなされ得るのである。

国民への奉仕は、すべての国民にとって当たり前のこととなります。教育、労働、保護、社会正義など、地域社会から何かを期待できるだけでなく、それに見合った義務もあることを理解するのである。こうして、最初は魂のない国家が、国家機構に組み込まれた各個人が責任を負う生命体となるのです。

ドイツ人一人一人の魂の中に、フォルクスシュタートは育っているのです！

革命の剣：SAスタッフガード

SAスタッフガードは、国家社会主義革命のガードであり、剣である。

その中には、自分の人生を完全かつ独占的に信仰に捧げる覚悟のあるSA戦士、「私生活」を気にせず国家社会主義のためだけに存在し、党が要求すれば笑いながら喜びの心で死に向かう戦士が集められている。SAスタッフガードの戦闘員は、ブルジョア的な存在を捨て、ドイツ革命勲章の騎士となる。
国家機関ではない、こうした党の武装エリート部隊での勤務は、もちろん自発的なものであるが、数年間、できれば生涯にわたっての献身を必要とする。SAスタッフガードに所属する戦士には、自由な時間も私生活もなく、その任務には昼も夜もない。

SAスタッフガードは、再建されない一般親衛隊のかつての任務の大部分を引き継いでいる。彼らはその資源で、国家社会主義人民国家を内部からのあらゆる危険から守るのである。

伝統と革命：ゼネラルSAとSAスピリット

人民軍への従軍は義務であるが、通常の職業生活の補足に過ぎない--実際

の兵役期間中と幹部は別である。SAの衛兵は志願者しか取らないが、彼らの奉仕は同時に彼らの職業、天職でもある。

一般的なSAは、いわばこの2つの陣形の間に立っており、闘争時代のSAの実際の伝統を保存しているのである。それは純粋な党員組織である。したがって、一般SAでの奉仕は自発的なものであり、可能な限り名誉的なものである。

一般SAは、あらゆるレベルにおける数多くの戦闘的・教育的任務のための党の衝撃部隊である。その努力によって人民大衆を納得させ、形成するというSA精神の担い手である。

は、**「Believe！従え！闘え！」は、**シュトルム＝アブテイルングの党員同志を形成し、革命が固まったり平坦化したりするのを防ぐ。エルンスト・レームとともに宣言するとき、われわれはこの無名の英雄に目を向ける：

"我々はサの国を要求する！"

ザ・ニューオーダー

現代の大きな精神的危機、人々の精神的混乱、内なる方向性の欠如、現代生活の無意味さ、未来の危険-これらすべてが、人類が数十年以内に自滅しないためには、新秩序が必要であることを強く訴えています。

この新秩序は、中世のそれと同様に、すべての国民に内的支援と安全を与えなければならない。効果的かつ形成的であるためには、拘束力を持たなければならないが、強制や恐怖に基づくものであってはならない。

これは、人間の本性にふさわしい自然の摂理である場合にのみ可能である。したがって、それは、国家共存の自然な有機体である人間と人種に基づくものでなければならない。これが、ドイツ国民における国家社会主義ドイツ労働者党の使命であり、白人が生活し、自分たちの未来のために闘うあらゆる場所で、国家社会主義の卓越した使命である。すべての共同体

生活は、自由と秩序の間の緊張によって特徴づけられる：

なぜなら、秩序なき自由は無秩序と没落をもたらし、自由なき秩序は抑圧と最終的な反乱をもたらすからです。

NSDAPは、ドイツの自由運動であると同時に、新秩序の党でもあります。我々は、ドイツ国民に、自由とは、偉大で強大なアーリア文化の建設に対する自発的で熱意ある同意であると理解させるよう教育したい。彼は、秩序そのものに疑問を抱くのではなく、私生活の形成における自由を、共同体の奉仕のために分別を持って使うことを学ばなければならない。私たち国家社会主義者が創り出そうとする未来のドイツ人は、こう問いかけるだろう：

"私は祖国のために何ができるのか？有意義な未来に向けた共通の闘いの中で、私はどこに挑戦しているのだろうか。"

そして、「未来は私たちのものであり、私たちだけのものである」と確信し、未来に向かって邁進することができるのです。

私たち国家社会主義者は、主人ではなく、人民のしもべになりたいと考えています。私たちは、純粋に信じる心と、伸ばした手を持って、そこに立っている。この仕事を成功させるためには、ドイツ国民の一人ひとりの助け、支持、協力が必要です。この世界の未来は、私たちの目の前にあります。私たちはそれを形にしたいのです！

私は今、ようやくスピーチの終わりを迎えました。私が言うべきことはほとんど残っていません。残りはもはやスピーチではなく、闘争と犠牲なのです。私と同志たちは、未来がどうなるのか、勝利なのか破滅なのか、わかりません。私たちの闘いは、私たちを権力に、刑務所に、あるいは民主主義やボリシェヴィキの銃殺部隊の銃に向かわせることができます。私たちは殴られ、投獄され、殺されるかもしれない。しかし、国家社会主義は、いつの日か卍の旗が再び風に乗って自由に飛び交う日まで、生き続け、働き続けるだろう。

しかし、私たちの愛はすべてドイツに対するものであることを、誰も忘れ

てはなりません。今日、私が言うこと全てに同意できない人でも、少なくとも一つのことは理解できますように：
ドイツのために誠実に立ち上がるすべてのドイツ人は、私たちに属しています。
私たちのプログラムのすべての点に同意するのではなく、ドイツの復活を共に信じ、公言することが重要なのです：

"私の愛はドイツに、私の忠誠は党に！"

このように、私たちの信仰を理解したいのです。ドグマとしてではなく、ドイツ人の間の愛と相互信頼の絆としてです。それが、私が国家社会主義者である理由です。

自分の道を認識したなら、その道を最後まで歩んでください！

あとがき

私は、このシステムで誰もが許されるとされることをした：

私は自分の意見を自由に表現してきた。この権利が認められるかどうかは疑問ですが、自由な表現の自由が試されるこの新しい試練を興味深く待っています。

私は、この執筆の過程で何度か、自分が何者でないかを説明してきました：

私は理論家でもなく、科学者でもなく、作家でもない。なぜなら、そこに記されている私たちのリーダーの考え方は、今も昔も有効性を失っていないし、今後も変わることはないからです。

私はこの本を、現在刑務所の壁で隔てられているが、新しいドイツを目指す闘いの中で深く結びついていることを自分自身が知っている同志であるあなた方のために書いた。

私はあなたのようなファイターであり、他の何者にもなりたくありません。

私は、私たち全員が知っていること、感じていることを紙に書き出し、それを順序立てて、より大きな文脈で整理しようと努めました。私は、獄中であっても、できる限り闘争に貢献しようと努めてきました。

私の人生の中で、私たちの運動の仲間ほど良い友人や貴重な同志を見つけたところはない。あなたのような人々、私の同志、そして私たちのような思想は、あらゆる犠牲を払う価値があります。

私は、地域社会の建設に決定的な役割を果たすという特権を与えられたことに誇りを感じています。もしあなたが、私が自分の義務を果たしたと信じるなら、私の投獄は意味があるのです。

勝ちたいから勝てるのです！

そして、もし誰かが疲れて落胆したら、再び勇気を与え、国旗のそばに立つようにしましょう-揺らぐことなく、ドイツの忠誠心を持って！一緒にやればできる-一緒に勝てばいいのだ！

私は、運動のすべての同志の忠誠、勇気、信仰に感謝する。ハンブルク党組織の創設者であり、かつての指導者であり、フライツァイトフェライン・ハンサと国家社会主義者の行動戦線（Aktionsfront Nationaler Sozialisten）の組織者として、この時点で、他のすべての人々の例として、また代表として、私の最も忠実な同志であり常に準備万端の活動家の名前をあげることを許可する：**ウド・ブディッヒである。**

しかし、この反省の最後に、我々の忘れられない総統は、国家社会主義に対する我々の人生の意味と目標を再び明確にするかもしれない：

"1923年11月9日、設立4年目に、国家社会主義ドイツ労働者党は解散し、帝国の全領域で禁止されました。1926年11月の今日、それは再び自由で、

以前よりも強く、内面的に堅固なものとして、我々の前に立っている。運動とその個々の指導者に対するあらゆる迫害、あらゆる冒涜と中傷は、これを害することができなかった。その思想の正しさ、その意志の純粋さ、犠牲を払う信奉者の意欲が、これまで、あらゆる抑圧からこれまで以上に強く立ち上がることを可能にした。

もし、現在の議会の腐敗の世界において、ますますその闘争の深い本質を思い起こし、自らを人種と人の価値の純粋な体現者であると感じ、それに従って自らを組織するなら、ほとんど数学的法則に基づいて、いつかその闘争に勝利を収めるだろう。ちょうど、ドイツが同じ原則に従って指導され、組織されるならば、この地球上で必然的にその地位を獲得しなければならないのと同じことである。

人種的毒の時代に、最高の人種的要素の育成に専念する国家は、いつの日か地球の支配者になるに違いない。もし犠牲の大きさに誘われて、起こりうる成功との比較に不安を覚えるようなことがあっても、私たちの運動の信奉者がこのことを決して忘れませんように

。

国家社会主義運動の最大の死者である
総統アドルフ・ヒトラーを記念する。

ハンブルク再拘留刑務所
1979年4月20日/90日 J.d.F.
ミヒャエル・キューネン（Michael Kühnen

NSDAP/AOは世界最大です

国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物

多くの言語の何百冊もの本

多くの言語の何百ものウェブサイト